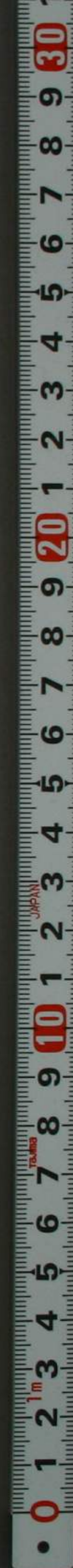


同及答議
條約改正ノ件ニ関シロエスレル氏一質

同
今ノ我國ハ歐州ニ至リテ新條約ヲ商訂
シ定メ置ケルニ於テ得ルノ利益ニ至リ
テ是レ不存ニシテ石炭油等ノ其地
ヲ獨ク我國獨ク其ノ利益ヲ一國ニ
シテ我國ノ利益ヲ損スルニ至リ



問及答
新出五ノ...



問

今ヤ我國ハ既ニ二三ノ國ト新條約ニ請即
シ一定ノ期限内ニ批准ヲ得ルノ機運ニ至シ
リ然ルニ若シ不幸ニシテ右期限内ニ其他ノ
諸國殊ニ我貿易ニ最モ關係アル一大國ニ
於テ條約ノ改正ヲ拒ムコトアリトスルハ左ノニ
大國難ニ遭遇スルコトナシトセズ

第一改正ヲ拒ムノ國ハ旧條約ヲ存シテ
カラ其最惠條約ヲ根據トシテ改正ヲ諾
セル國ト均一ナル利益ヲ享受セント主張

スレ

第二 新條約ヲ締結セル諸國ハ改正ヲ
諾シテカラ高改正ヲ諾セサル國ノ例ニ依
リ旧條約ノ低稅據置ヲ主張スレシ
此二個ノ主張ハ其ニ不当ナル一端ヲ候タス何
トナレハ第一ノ場合ニ於テ改正ヲ拒ムノ國ハ最惠
條款ヲ根據トスルトモ其最惠條款タル所
謂條件附クモノニシテ新條約ヲ諾セル國ノ人
民ハ一方ニ内地雜居ノ自由ヲ得ルモ亦一方ニ
於テハ之ニ對シ我國ノ法律ニ服スル義務アレハ

均一ノ利益ヲ受クレハ隨テ又均一ノ義務ヲ負
ハサルヘカラサルハ当然ノ理ナレハナリ又第二ノ
場合ニ於テ改正ヲ諾シテカラ高旧條約ノ低
稅據置ヲ主張スルカ如キハ度モ其理由アルヲ
見スレテ強レト考フヘカラサルノ主張ナリ
然リ而シテ若シ實際右ノ如キ不当ナル主張ヲ
爲ス國アル場合ニ至リタルトキハ之ニ對スル處
分如何スヘキヤ新條約ヲ拒ムノ國ニ對シ旧條約
ノ廢棄ヲ宣言スル片ハ右ノ如ク新旧條約ノ善
悪ヲ生スヘキ困難ヲ容易ニ除去スル一ヲ得ハ

フシテ最モ得難トスルモノ、如シ然レハ我國ノ
一方ヨリ或ル國カ新條約ヲ諾セサルノ理由ニ依
リ其國ニ對シ當時尙成立スル所ノ條約ヲ廢
棄スル旨ヲ宣言シ其國ノ諾否ヲ問ハサ
ルモ法理上果シテ當然トスルヤ若シ法理上
當然トスルモ外國ニ於テ若クハ如キ類例アリヤ(露
國カ里海ニ關シ條約ヲ廢棄シタルカ如キモ其一例
ナルヤ)又類例アリトスルモ其實行ノ方法系結果
如何

本文右期限内ニ各國意ヲ改メテ諾スル

ニ至ラサレハ條約第一第二ノ主張ヲ提出
スル國ナシトスルモ實際ニ於テ舊條約國
ノ人民ニ新條約ノ利益ノミヲ得有レ又
新條約國ノ人民ニ舊條約ノ特權ノミヲ保
持セレカ爲メ互ニ名ヲ藉リ實ヲ濫用ス
ルハ免ルヘカラサルノ弊トナルヘケレハ我國ノ
行政上謂フヘカラサルノ困難ヲ生シテ尙
其實効ヲ奏スルヲ能ハサルヘシ故ニ此場合
ニ於テ舊條約ノ廢棄ハ右ノ主張アリタル
ト否トニ拘ラズ實際ノ必要ナリ唯尙フ所ハ

法律上實際と之ヲ為シ得ルヤ否ニ在リ

答

第一 或ル國カ新條約ヲ拒シテカ最惠條約ヲ根據
トシテ新條約ノ利益ノミヲ享受シ而シテ其新條
約ニ定メラレタル條件及其利益ニ對スル義務ヲ負
担セザルトノ請求ハ全ク當ラ得サルモノナリト謂フヘシ
何トナレハ雖令最惠條約ノ實義未ダ全ク確定ス
ルニ至ラス又日本ノ條約中ニハ一國ニ附其レタル利
益ハ「直クニ」又ハ「自由ニ」其他ノ國民ニモ全與スヘ
シトノ條款アリトハ蓋シ彼ノ不當ナル請求ニ對シテ

ハ左ノ辨駁ヲ為スヘシ得レハナリ

一 最惠條約ハ通常貿易通船及其他商
工ノ事項ニ關スルモノニシテ兩國間ニ條約ヲ以テ定
メラル法律上及政治上ノ關係ニ關スルモノニアラサル
ナリ其關係トハ全國ヲ廣キ且新ナル裁判權ヲ定
ムルカ即キ是レナリ
二 又最惠條約ハ單獨ニ附與スルヘシ得ヘキ事
物ニ適用スルヘシ得ルモノナリト雖モ他ノ條約上ノ
關係ト密着シテ相離ルヘシ得サル事物ニハ適
用スヘキモノニアラス是レ即チ或ハ條約ヲ以テ兩國

間ノ一般ノ關係ヲ定ムル場合或ハ一定ノ利益及推
利ト施行上必要ナル特別ノ條件又ハ權利ト相
離ルヘカラスル義務トヲ聯絡シタル場合ナリ

三 本例ノ場合ニ於テハ旧條約ノ最惠條款ハ
旧條約ヲ存シテ或ル國ニ附與シ又其他ノ國
ニモ分ツテ得ヘキ利益ノミニ適用スルテ得
ルモノニシテ全ク新ナル條約ニ定ムラレタル利益
ニ適用スルコトヲ得ヘキモノニアラサルテ宣言スル
テ得ヘシ蓋旧條約ヲ締結スルニ當リ外國カ新
條約ノ利益ノミヲ享受シ而シテ其負擔及

條件ニ限セサルハキ一ハ當時日本及條約國ノ意
思ニアラサリレテ論ヲ俟ツサレハナリ

抑日本ニ於テ全國ヲ開テ外人ヲ容ル一及之ヲ生
スル法律上政治上ノ結果ト領事裁判權ヲ廢
シ關稅ノ新法ヲ定ムル一トハ相俟行スヘキモノニ
シテ決シテ其一ヲ偏廢スヘカラス若シ此儀行ナカリ
トハ條約ノ改正モ日本ニ取リ利益ナク且無用トナルハ
之故ニ日本ハ諸條約國カ新條約ヲ以テ一ノ全
體ト認メ決シテ其一ヲ採リ其ニテ捨ルカ如キ一ナ
ク且右ノ諸國ハ條約ヲ以テ之ヲ認ムルノ義務アル一

ヲ新言レシ之ヲ実行セサルヘカラス

又日本ハ旧條約ノ最惠條欵ハ最モ普通ノ意
義ニシテ他國ノ條約ニ載タル如ク特別且精密ナ
ル規定ヲ載セサルヲ明言タルヲ得ズ此ノ如ク
此最惠條欵ニ基クテ所ノ權利ハ普通ニ其ヘ
ラレタルモノナレハ他條約國ノ單ニ自己ノ利益ニシテ謀
日本ノ利害如何ヲ顧ミテナク此條欵ヲ廣泛ニ解
釋スヘカラサルノ理生ス故ニ日本政府ハ此如ク偏頗
ノ解釋ヲ行クルヲ得

第二又或ハ國カ新條約ヲ諾シナカラシムル舊條約ニ

於テ附與セラレタル利益殊ニ低稅ノ措置ヲ要
スルカ如キハ一層不当ナリ蓋新條約ハ旧
條約ニ代フル者ニ情ヒタルモノニシテ旧條約ハ為
メニ廢セラレ、モノナレハナリ然レニ彼ノ要求ハ旧
條約ノ繼續ヲ求ルモノナレハ之カ為メ新條約ノ
効力ヲ皆無ニスルモノニシテ其要求タル實ニ考フ
ヘカラサルモノナリ其要求タル條約國ノ利益トナル以上
ハ旧新ノ條約ヲ兩ツナカラシ通用シ若シ其害トナル
ハ之ヲ適用セサルノ結果ヲ生スヘシ也此ノ條約ノ
効力ヲ隨意ニ存廢スルカ如キハ毫モ其法理ノ存

スル所ヲ知ラサルナリ

然レモ若シ此諸件ニ付日本ニ満足ナル協議ヲ遂クルトシテハ
サル中ハ新條約ハ遂ニ實行スルヲ欲サルニ至ルヘシ蓋日本
ハ決シテ新條約ノ一部ヲ實行スルヲ以テ満足スヘキモノ
ニアラス又一二ノ國カ新條約ノ利益ヲ享受スナカラ
之ニ附着タル條件及義務ヲ負サルトシテ黙諾スヘキ
モノニアラス又經合一二ノ國カ全ク新條約ヲ履行シ
之ニ服従スルニ至ルモ若シ其他ノ國カ上ニ述ヘタル
意義(第一)ニ於テ最惠條款ノ權利ヲ主張
スル中ニ未ダ新條約ヲ施行スルトシテ得ズ何トナレバ然

ルハハ少クモ此諸國ニ對シテハ新條約ハ其効力ヲ全
クスルトシ得ル者ナリ新條約ノ利益ノ大半ヲ失フニ
至レハナリ

第三。抑條約ノ神聖ナルトハ國際法ノ一大原則ナ
リ然レモ時トシテ一定ノ場合ニ於テ元來有効ナル條
約ヲ廢棄スルヲ得ルハ亦一般ニ認ムル所ナリ是レ即
チ一國カ其鬼高ノ利益ヲ謀ラレカ爲メ其獨立
ノ權力ヲ行用スルノ能ハル場合ナリ民法上ニ於テモ
強迫・迷誤・過度ノ損傷等ノ理由ヲ以テ元來
有効ナル契約ヲ裁断所ニ訴ヘ以テ其無効ヲ裁判

ヲ求ムルコトヲ得主權國ノ間ニ裁判官ナル者アラ
ナルヲ以テ各國其權力ニ依リ其主權ヲ実行シ其
判定力ニ依リ其權利ヲ主張セサルヘカラス
今日本カ現行條約ヲ廢棄スルノ權利ヲ付テハ
左ノ理由ヲ基クルコトヲ得ル

一、抑國際法上ノ條約ハ其本性ニ從テ常ニ一定ノ
時一定ノ必要ニ對シ締結スルモノナリ蓋各國
ハ此種ノ條約ニ申リ其主權ヲ自由ニ施行スルコ
ト妨ケラルヘカ有ナリ又將來ノ不定時間ニ對シ
主權ヲ外國ニ服従セシムルハ國家ノ本性ニ違

セサルカ有ナリ故ニ凡ソ條約ニ皆廢棄ノ條
款アリ日本ノ條約ニモ亦此條款アリ但今此
條款ハ元來外國ノ承諾ヲ要スヘキモノナ
ルニモセヨクシテ日本ハ自由ニ條約ヲ廢
棄スルノ權利ヲ如何ナル場合ニ於テモ絶對的
ニ失フタルモノト解スヘカラス

二、日本ハ改正條款ニ依リ自國ノ利害ヲ根
據トシテ旧條約ヲ改正スルノ權利アリ改正
條款ノ字句ハ各國トノ條約ニ依リ相異ナ
リ然レモ此種條約ハ各條約國ニ對シ同一ニ適

用セラルルヲ以テ日本其利益に相当スル字句即
テ「改正ヲ要スルヲ得」(日英及日佛條約)
意ニ基キ之ヲ実行スルヲ得其他ノ條約ニ於
テ「改正ヲ申立」ワルヲ得ノ字句ハ先ツ條約上
ノ方法ニ依リ改正ヲ為スヘキヲ定メタルモノト
解スヘシ然レモ若シ條約上ノ權利ニ基キ改正
ヲ為スヲ能サル由ニ日本ハ條約ナキ時ノ自然
ノ自由ヲ恢復シ以テ旧條約ヲ廢棄シ他ノ方
法即テ立法手續ニ依リ之ヲ改正スルヲ得ヘ
シ之ヲ措言スルハ改正條款ノ字句ニ依リ

日本ハ成ルヘク條約上ノ方法ニ基キ改正ヲ求ムヘ
シトモ外國ハ之ニ反對シ改正ヲ不定時間ニ
妨害スルノ權利ヲ得タルモノニアラサルナリト謂フニ
三、又旧條約ニ依リ生シタル法律上ノ有様ハ日
本ニ於テ新ク發布セラレタル憲法ト併立ス
ヘキモノニアラス今ヤ日本主權ノ施行方法
ハ憲法ニ依リ制定セラレタル他ノ方法ヲ以テ
之ヲ施行スルヲ許サス然ルニ旧條約ハ外
國政府ニ一般ニ日本ノ主權ヲ施行スルヲ許ス
ノシテラス尚日本憲法ノ規定如何ヲ斟酌

セサルモノナリ是レ憲法ニ矛盾スルノ有様ニシテ永
ク継続スヘキモノニアラス 旧條約ハ現時日本ニ於
テ外國人ノ為ニ一種ノ裁判及行政法ヲ成立セシメ憲
法ニ全ク矛盾シ且憲法ノ施行ヲ妨クルモノナリ
然リ而シテ日本ニ此條約アルカ爲メ決シテ憲法
ヲ制定スルヲ妨ケラルヘキモノニアラス何トナレハ此
事タル元來犯スヘカラス所ノ高等主權ニ屬シ
外國政府ノ條約上ノ權利モ亦其下ニ立ツモノナ
レハナリ

四、又日本ニ泰西ノ原則ニ適スル裁判及行

政法ヲ制定シタレバ領事裁判ノ如キ沿革ニ基
ク所ノ實際ノ必要ハ既ニ消滅シタルヲ宣言スルヲ
得蓋旧時ニ存シタル泰西ノ亞細亞政治ノ
差違タル本源ハ之カ爲メ原則上ニ於テ既ニ
除去セラレタレハナリ

余ハ既ニ千八百七十九年ニ於テ外務省ノ爲メニ作
リタル意見書ニ於テ條約廢棄ノ法理上許
スヘキモノナルヲ明言セリ而シテ其理由トシテ重
モ二一及二ノ事項ヲ舉ケタリ予ノ識ク所ニ依レハ
英國法學家「トレフェルト、トウイス」モ亦同様ノ

意見ヲ述ハタリト云フ但其意見タル世ニ公ニシク
ル記事中之掲ケタルヤ又ハ特別ノ意見書ニ記載
シタルモノナルヤ否ノ知ラサル所ナリ外務省ニ就キ
之ヲ尋ネタリシニハ其詳細ヲ知ルコトヲ得ハレ

千八百七十年ニ於テ露國ハ千八百五十六年巴里條
約中黑海ニ軍艦ヲ置クヘカラサル義務ニ關スル規定
ヲ廢棄シ其理由トシテ事情一變ニシタルコト右
ノ規定ハ露國ノ主權ニ關スル利益ヲ大ニ損スル者
トシ以テセリ此時露國ハ豫ノ字國ノ補助ヲ約束
セリ英國ハ当初之ニ反對シタルモ後ニ他ノ諸國

ト共ニ之ニ同意シ遂ニ條約諸國龍動ニ會同
シテ其廢棄ヲ認可セリ

又合衆國ノ國會ニ於テハ外國トノ條約ハ立法權
ニ依リ廢スルコトヲ得ルノ意見ヲ公言シタル者ア
リ是レ蓋條約ハ一國ノ法律ニ異ナラカレハ其他
ノ法律ニ均シク立法權ノ下ニ立ツヘシトノ意ナルヘシ
其詳細ハ今之ヲ述フルコトヲ得ス

第四條約廢棄處分ノ施行ハ凡ソ左ノ方
法ニ依ルヘキカ

一、條約ノ廢棄即旧條約ヲ無効ナラシムル為メ少

ツモ一々年ノ施行期限ヲ予フル

二同時ニ又法律ヲ以テ既ニ各國ト約束セタル條
件ト大體ニ於テ同一ナル新法ヲ定クルト但日本
ノ利益ノ為メ特別ノ規定ヲ定クルモ妨ケナシ
是レ殊ニ不動産ノ所有及外國裁判官ノ
任命等ナリ

三、各條約國ヲ平等ニ取扱フ

四、日本ノ安全ヲ謀ル為メ一ニテ國少クモ一大
國ノ補助ヲ約シ以テ常ニ交際上ノ幹旋ノ為メ
ノミナラス尚緊急ノ場合ニ於テ實際ノ補助

ヲ行ハシムルノ必要ナリ其國ハ日本ノ隣國ナル露
國及合衆國ヲ以テ自然ノモノトス獨逸ノ補
助モ亦價直アリ然レモ獨逸ハ日本ヲ距
ル甚ク遠ク又自國ノ事ニ汲々トスルヲ以テ交
際上ノ補助ノ外ニ他ノ補助ヲ為スル能ハサル
ヘシ又其政治上ノ地位ニ付之ヲ考フルモ英
國ト相離シ、一トテ敢テセサルヘシ右諸國中合衆國
ノ補助ヲ最モ宜シトス何トナレハ米國ハ日
本ニ對シ熱心ナル感情ヲ表シ且亦交政界
ニ於テ稍權利ノアル所ヲ貴重スルモノナレハ

ナリ又米國ノ政治上ノ位地ハ不羈獨立ニシテ且
鞏固ナリ米國ハ太平洋ニ於テ獨立ノ政略ヲ
行ヒ且他國トノ葛藤ニ於テハ一步モ退カ
サルノ國ナリ例ヘハ佛國(メキシコ事件)英國
(アラバマ事件、サックウイル事件)獨逸(ガ
モア事件)トノ葛藤ニ於テ常ニ全勝ヲ占
メタリ故ニ日本ニ於テ米國ト聯合スルトキハ
外部ヨリ敵視ノ攻撃ヲ受クルノ恐ナキハ豫定
スルテ得ヘシ

五、此處分ニ付キ戰ヲ開クニ至ルノ恐レハ決
シテアラサルヘシ然レモ若シ先方ヨリ強暴ノ所
爲アルキハ之ニ對シ相當ノ應報ヲ爲シ且
当該國ノ人民ヲ日本ヨリ放逐シ又之カ
準備ヲ爲スヘシ

六、條約廢棄ノ機會ハ歐洲ニ於テ將ニ發
セシトスル葛藤ノ生ズル前ヲ好レトス蓋歐
洲各國ハ事情ノ切迫スル爲メ兵力ヲ日
本ニ向クルトシテ妨ケラルレハナリ又各國相互
ノ不和ハ日本ニ取リ利トナレハナリ又察
察ノ理由トシテハ憲法施行ノ期迫マリタル

所以ヲ以テスルヲ得ヘシ

第五。予ハ新條約ヲ各國ニ對シ同時ニ適用スルニ至ラサル以上ハ決シテ新條約ヲ批准スヘカラサルヲ切ニ勸告ス何トナレハ維令或ル國カ前述ノ要件ヲ為サレモモセヨ外國人ヲ各別ニ取扱フニ最モ困難ナレトナレハナリ又日本官廳ハ常ニ外人ノ不正ナル所ヲ處分スルニ苦マサルヲ得サレハナリ否之ヲ為サント欲スルモ實際之ヲ為ス能ハサルハ例ニ英人ヲ外人ヨリ區別シ又ハ輸入品ニ付キ其輸入

國ヲ確定セントスルカ如キハ殆ント爲シ能ハル所ナリ又從來日本在留ノ外國人ハ均シク同一ノ取扱ヲ受フルヲ慣レ居ルヲ以テ今一時ニ不同ノ取扱ヲ爲サントスルモ到底実行スルヲ能ハルヘシ○又新條約ヲ一ニノ國ノシニ對シ施ラズル能ハサルノ理由ハ新條約ヲ批准セズシテ旧條約ヲ悉ク廢棄スルノ學問ナレバ原因トナルヘシ何トナレハ日本ハ其國土ニ在ル外國人ヲ取扱フニ於テ一ニ外國トノ條約ニ從ハサルヘカラサルノ義務ナケレハナリ又此ノ如クナル

ハ日本在留外國人ノ權利義務ハ其國籍ニ
從ヒ甚ク相異ナルニ至レハナリ

八十九年八月二十日

ヘルマン・ロズレル

問

舊條約廢棄ノ理由ハ既ニ之ヲ領セリ若シ各
國ニ於テ到底新條約ノ改正ヲ諾セサレハ已ム
ヲ得ズ我リ此理由ヲ以テ旧條約ヲ廢棄

スル能ク申込マサルヘカラサルヘシ然レモ彼
レニ於テ「旧條約ノ改正ハ條約ヲ以テ爲ス
ヘクシテ一方ヲ隨意ニ廢棄スルヲ得ヘキモ
ノニアラサル」兩國條約ノ文面ニ於テ明瞭
ナリ然ラハ條約ノ改正ハ必ラス雙方ニ承諾
ヲ要スルハ兩國當時ノ意思ナリシ「ハ論
ヲ後々ニ述ルニ日本ハ喋々國際法上條約
ノ性質ヨリ立論シ廢棄セサルヘカラサル
ノ法理ヲ説クト雖モ法理ハ抑々未ナリ彼
我ノ準備スヘキ所ハ唯雙方ノ意思如何ニ

存_レ之即_テ意思ノ顯_レタル條約ノ文面
如何ニ在_ルノト論_シ來_ラハ之ニ對_シ如何
ナル答_ヲ為_スヘキカ敢_テ貴_國答_ヲ請_フ

答

旧條約ヲ廢棄スル正當ノ理由ハ既_ニ已_ニ之
ヲ辯_セリ其_ニ彼_レ尚_右ノ如キ論_ヲ提出ス
ルアラハ我_{ヨリ}尚_左ノ如ク之ニ答_{フル}ト_テ得
柳條約ノ改正ヲ要求スルノ權利ハ既_ニ二十
年來我_ノ有_ル所_{ナリ}爾來屢_ニ改正案ヲ
提出スレ共_ニ權_々ノ困難ニ遭遇_シ其目的ヲ

果_スト_テ得_サリキ今_般更_ニ改正案ヲ提
出_シ章_ニシ_テ既_ニ其_々國ノ諾_{スル}所_トナ_リタ_リ
ト_モ不_章ニシ_テ未_ク貴_國ノ諾_ヲ受_ケス
為_メ新條約ヲ施行スルト_テ得_ス貴_國ハ
條約ノ文面ヲ主張スルト_モ我_國ハ此文面條
約ノ改正成_ルハ_ク雙方ノ合意ヲ要_シ若_シ合意
成_ラサルハ總_テ國際上ノ條約ノ如ク一方ヨリ
随意_ニ廢_棄ス_ルト_テ得_ルモノト解釋スルモ
ナ_リ若_シ此解釋ニ依_ラサレハ日本ハ此先
十年二十年若_クハ百年ニ涉_ルモ尚_或貴

國ノ承諾ヲ受クルニ可ラサルヤモ知ルヘカ
ラス然ルハ現行條約ハ永久不變ノモノ
ト解セサルヘカラス是豈兩國ノ意思ナ
ルヲ得ニヤ是豈條約文面ノ意義ナ
ルヲ得ニヤ云々ト辯論スヘシ要スルニ是
レ解釋上ノ問題ニシテ一方ヨリハ廢棄スヘ
カラサルノ理由ヲ唱フルモ亦我ヨリハ廢棄
セサルヘカラサルノ理由ヲ説クヲ得ヘシ

問

右ノ如ク互ニ文書ヲ交換スルモ彼ニ於テ我

ノ申込ニ應スルノ見込ナキハ如何

答

此場合ニ至ラハ日本ハ此條其國對シ旧條
約ヲ廢棄スル旨ヲ宣言シ且後年交換シタル
文書ヲ公ニシ以テ是非ノアル所ヲ天下ニ廣告
スヘシ但舊條約廢棄ノ期限ハ少クモ一十年
ト為スヘシ又此宣言ヲ為スト同時ニ日本ハ自
國ノ立法手續ヲ以テ他國ト既ニ條約ヲ結ビ
タル條件ト略ニ同一ノ關稅法ヲ定メ特別ノ
條約ナキ外國人ヲハ皆此稅法ノ下ニ支配ス

ル旨ヲモ告知スヘシ其他外國人ニ不動産所
有ヲ許スヘシモ便宜法律ヲ以テ之ヲ定ムル
トヲ得彼レモ於テ日本ノ決心此點ニマテアル
ヲ知ラハ遂ニ新條約ニ同意スルニ至ルヘシ
何トナレハ新條約ヲ締結スル片ハ彼レニ條約
上ノ權利ニ基キ一定ノ年限間若干ノ課税ヲ
納ムルヲ得レモ日本ノ法律ヲ以テ定メラ
ル片ハ若干年ハ三割ナルモ明年ハ三割五分若
クハ四割ニ引上ルモ全ク日本ノ隨意ナレハナリ
能リ而シテ日本ニ於テ此ノ如キ路行ヲ為ス

ニハ豫メ他國ノ賛成若クハ補助ヲ約スルヲ
要ス各國トノ談判上ニ於テ獨逸カ日本ヲ補
助セシナラハ日本ニ取リ大ニ利アルヘシ然レ
モ日本ト他國トノ間ニ葛藤ヲ生シ將事
アラントスルニ至ラハ獨逸ハ歐洲諸國殊ニ英
國ト反對ノ方向ヲ取リ之ニ反對シテ日本ノ
補助ヲ為スヘシ能サルヘシ何トナレハ獨逸ハ
日本トノ距離遠ク又自國ノ事ニ汲ミトシ
ニ歐洲各國中少クモ英國トハ相提挈セザ
ルハカラサルノ事情アレハナリ之ニ及シ米國

ハ日本ニ實際ノ援助ヲ為スルヲ得ヘシ何トナ
レハ米國ハ獨立ノ地位ヲ有シ大平洋ニ於
テ一種ノ政略ヲ行フヲ得レハナリ日本ニ
於テ此兩國ノ援助ヲ得ハ改正ノ談判ニ容
易ニ成ルニ至ルヘシ

問

己ムヲ得サレハ外國ノ補助ヲ要スルヲアルニ至
ルニ成ルハ外國ノ勢力ヲ頼マサルヲ好シトス
又外國ノ賛成若クハ補助ヲ求ムルモ之ニ應セ
サレハ亦己ムヲ得サルヲナルヘシ如何

答

凡ソ一國ノ内治ニ関シ外國ノ補助ヲ仰クカ如
キハ決シテ為スヘカラサルモノナルモ外國トノ談
判若クハ葛藤ニ関シ外國ノ同意若クハ補助
ヲ求ムルハ往ニ之アルヲナリ是レ國ト國トノ
關係ニ於テハ裁判官ナル者存セサルヲ以テ
己ムヲ得ス第三ノ國アルヲ要スルナリ又獨
逸ハ談判上ニ於テ日本ヲ補助スルハ決シテ之
ヲ辭セザルヘシ何トナレハ獨逸ハ歐洲各國中
最モ先ニ日本ノ改正條約ニ調印シタルノ國ナ

ルノミナラス此條約ヲ利用シテ日本ノ内地ニ於
テ大ニ高賣ヲ營ムノ希望ヲ有スルモノナレハ
ナリ又米國殊ニ當時ノ政府ニ英國ニ反對シ
既ニ彼ノ選舉事件ニ關シ英國公使「サック
ウエル」ヲ放逐シタルノ例モアレハ日本ノ正當ナ
ル請求ヲ飽クマテモ贊成シ之ヲ斷行スル補
助ヲ為スハ毫モ疑サル所ナリ若シ此兩國ノ
補助アラハ他國カ日本ヲ輕侮シ日本ヲ恐嚇
スルカ如キ「決シテ」之アラサルヘシ然レハ英國
ハ天下ノ正理公道ヲ破ル「ナク」自己ノ利益ト

ナル以上ハ出耳ルタケ之ヲ保持セントスルモノ
ナレハ縱令開戦ヲ申込「マサル」モ一市若クハ一
港ヲ砲撃シ以テ自己ノ意見ヲ實行セシ「ラ
試」ミサル「ナシ」トモ日本若シ此ノ如キ場合ニ
至ルモ決シテ屈スル「ナク」之ニ對シ相當ノ應
報ヲ為スヘシ又日本ニ在ル英人ヲ悉ク國外ニ
放逐スヘシ而シテ之ヲ生スル損害ヲ如キハ他
日賠償ヲ求メテ可ナリ但既ニ「述」アルカ如ク
兩國ノ補助アル以上ハ英國モ亦右ノ如キ暴
挙ヲ企テサルヘシ是唯萬一ヲ慮リテ「謂」フタ

ルモノナリ

問

如何ニ英人無法ナルモ萬國貿易ノ為メ開キ
タル開港場ニ於テ右ノ如キ砲撃ヲ為スト
アルマシ此ノ如キハ萬國公法上許サレ
所ナラスヤ

答

然リ否例ヘハ横濱砲撃事スルトセシニ横濱ニ
ハ外人ノ居留地アルモ是レ均シク日本ノ國
土ナリ日本警察官權ノ及フ所ナリ故ニ日本ニ

害ヲ如ヘシカ為メ之ヲ砲撃事スルトセハ法律上
ニ於テハ開港場ナル如何ヲ問サルナリ何トナ
シハ開港場モ均シク日本政府ノ保護ニ屬ス
ルト一般ノ内地ト異ナルトナケレハナリ然レ
氏英人ハ若シ暴行ヲ企ツルトアルモ政略上
居留地ノナキ方面ヲ砲撃事スルカ又ハ他ノ市
ニ向フヘシ何トナレハ英人モ亦其他ノ外人ヨ
リ苦情ヲ受クルトナリ好マサレハナリ

問

何ヲ以テ公然タル開戦ニ至ルマシト云フカ

答

近來一般ニ干戈ヲ動カスヲ減サシ利益ノ争
トナリタリ英人及其他ノ外國人ノ日本ニ來ル
ハ其目的利益ノ一點ニアリ故ニ日本ト通知
貿易ヲ為シ以テ成ルヘク大ナル利益ヲ得ント
欲スレバ僅ニ條約改正ノ思フ様ニ成ラサルカ
為メ戰ヲ開クハ損益ヲ償サルノミナラス將
來ニ於テモ亦日本ノ敵トナリ日本人ノ厭フ所
トナルヘシ然ル中ハ其大目的タル日本トノ貿易
ハ地ニ墜テ他ノ外國人ノ占ムル所トナルヘシ

是レ英人カ漫ニ戰ヲ開カサル所以ナリ

問

英人此ノ如ク日本ニ於テ商業ヲ廣メント欲
セハ何ソ速カニ我新條約ニ同意セサルヤ貴
説如何

答

予ノ判定ニ依レハ英人ノ拒ム所ハ重モニ裁判
權ノ一點ニアルヘシ英人ハ埃及并支那日本
等ニ於テ既ニ久シク領事裁判ノ組織ヲ立
テ上海ニ上等裁判所ヲ有セリ故ニ今日本

ニ於テ此裁判權ヲ失フハ隨テ他ノ國ニ於
テモ之ヲ失フニ至ルヲ恐レテナルヘシ日本ノ
内地ニ入りテ自由ニ商賣ヲ営ムヲ得ルハ
英人ノ最モ望ム所ナリ

問

獨逸并英國ノ如キハ歐洲ニ在リテ同一ノ
方向ヲ執ルモノナリ今ヤ獨逸ハ既ニ新條約ニ
調印セリ英獨ハ必ラス豫メ打合ヲ為セシ上
談判ヲ始メタリシナラン英國ノ今日マテ猶
豫セ六果シテ如何ナル理由ナラン

答

予モ亦之ヲ疑ヘリ英國ノ今日マテ調印セサル
ハ或ハ獨逸豫メ英人ノ新條約ヲ拒マンヲ
察シテ英國ト打合ヲ為サスレテ調印シタル
モノナルヤモ知ルヘカラス然ルハ獨逸ハ日本ニ
厚意ヲ表スル如クシテ其實ハ改正ノ一般ニ成ラ
サルヲ期シタルモノナリ此レ固ヨリ想像說ナ
リ一体獨逸ハ速ニ内地ニ入りテ英人ト競
争シ之レニ打勝ツノ目算アリ蓋獨逸人ハ能ク日
本ノ風俗慣習ニ化シ又日本語ヲ熟習スルヲ容

易ナリ而シテ英人ハ之ニ異ナルノ情况アレハナリ

問

新條約ノ施行期限ニ至ルマテ各國悉ク改正ニ同意セサレハ不得止新旧條約ヲ併行セサルヘカラス実ニ此時ニ当リ改正ニ同意セサルノ國ニ於テ別ニ不當ノ請求ヲ為サス唯同意ヲ遷延スルノミナル片ハ之ニ對シ旧條約ノ廢棄ヲ宣言スルノ理由ニ乏シ故ニ實際ノ政務ニ於テ如何ナル困難ニ遭遇スルモ是非新旧條約ヲ同時ニ施行セサルヘカラサルヘシ貴説

如何ニ他國ニ同意ヨシハ如何ナル場合ニ至ルモ新旧條約ヲ同時ニ併行スル能サルモノナリト信ス如何ニシテ英人ヲ米人ヨリ區別スルヲ得ルヤ又如何ニシテ英國品ヲ米國品ヨリ區別スヘキヤ現時日本ノ慣例ニ依レハ例ハ唐系一片ニ付キ若干ノ稅ヲ課シ而シテ英人若クハ米人又ハ日本人ノ之ヲ輸入スルヲ均シク同一ノ稅ヲ課ス物品ノ出所如何ヲ問

如何ニ他國ニ同意ヨシハ如何ナル場合ニ至ルモ新旧條約ヲ同時ニ併行スル能サルモノナリト信ス如何ニシテ英人ヲ米人ヨリ區別スルヲ得ルヤ又如何ニシテ英國品ヲ米國品ヨリ區別スヘキヤ現時日本ノ慣例ニ依レハ例ハ唐系一片ニ付キ若干ノ稅ヲ課シ而シテ英人若クハ米人又ハ日本人ノ之ヲ輸入スルヲ均シク同一ノ稅ヲ課ス物品ノ出所如何ヲ問

サルナリ今之ニ及シ英人ハ五分ノ税ヲ納メ米
人ハ三割ノ税ヲ納ムルトセンニ米人ハ英人ノ
名ヲ以テ物品ヲ輸入スヘシ又米人ハ内地雜
居ノ權アリ英人ハ此權ナシトスルモ英人ハ米
人ノ名ヲ藉リ而シテ内地ニ於テ負債ヲ為
シ居留地ニ歸リ更ニ英人ノ權利ヲ主張シ
我裁判權ニ服セサルヘシ其實際ノ困難實ニ
思フヘクシテ到底行フテ能ワサルモノナリ故ニ
此ノ如キ場合ニ於テハ各國カ悉ク同意スルニ
至ルマテハ既ニ同意シタル條約ノ批准ヲ延期

スルヨリ他ニ良策アラサルヘシ或ハ已ラ得サレ
ハ批准ヲ拒マサルヘカラス要スルニ新旧條約
ヲ同時ニ施行スルハ到底為シ能サルナリ

問

我國ハ既ニ墨國ト新條約ヲ結ビ今日既ニ
新舊條約ヲ併行スルニアラスヤ

答

此事ハ其當時他人ニ注意セシテアリ然レモ
墨人ハ僅カニ二名ニシテ日本トノ貿易モ減
ニ微々ナルヘシ故ニ實際ノ困難ヲ為サズ若

此國ニシテ英國若クハ佛國ノ如キモノナ
ランニハ到底實施スルヲ能ハルヘシ

問

條約批准ノ延期ハ止ムヲ得サレハ之ヲ為シ
他ノ一方ニ對シ大ニ其信用ヲ害フヲナキモ
批准ヲ拒ムトハ重要ノ事件ニシテ之ヲ行
フ時ハ其國ヨリ如何ナル談判ヲ受クルモ致方
ナカルヘシ如何

答

相當ノ理由ナクシテ條約ノ批准ヲ拒ムトハ其
國ヲ蔑視スルモノニシテ容易ニ為スヘカラサ
ルモノナリ然レモ法律上ヨリ之ヲ論スル時ハ
條約ハ批准ニ依リ始メテ確定スルモノナルヲ
以テ未タ批准ヲ為サル以上ハ之ヲ拒ムトヲ得ルノ
法理生ス而シテ批准ヲ拒ミタルノ例サレト
セズ但政界上ヨリ論スレハ此ノ如キ事ハ成
ルヘク避クヘキトナリ日本ハ批准ヲ延期スル
ノ理由トシテ他ノ條約國カ未タ同意セス為
メニ新條約ノ實行ヲ妨クルトヲ以テスルト
ヲ得ヘシ又之ヲ拒ムニモ同一ノ理由ヲ以テシ

且各國ニ對シテハ旧條約ノ廢棄ヲ宣言ス
ルヲ得ヘシ然レモ此事ハ容易ニ行フヘキ
モノニアラス 唯此權利アルヲ示シタルノミ

...

スミス氏意見

同氏講義録
抄出

日本外交ノ問題

萬國公法上ノ問題ニシテ日本今日ノ事ニ
關シ特ニ重大ナル者ハ他無シ期限ヲ立テス
レテ結ビタル條約ハ果シテ永遠ニ遵守スヘキ
義務アル所ニシテ之ニ關スル諸國ノ悉ク同
意スルヲ俟テ後ニ始メテ改正スルヲ得ル者
ナリヤ如何ト云フ是レナリ

此問題ニ關シテ萬國公法上ノ著述及
學問ヲ案スルニ左ノ如キ意見アリ曰ク

...

無期限ノ條約ト雖モ之ヲ結ビタル一國ニ
於テ其之ヲ結ビタルキハ事情ノ變化シタ
ルヲ證明スルコトヲ得ル場合ニ於テハ則
其改正ヲ他ノ諸國ニ向テ要求スルノ權利
アリト是レ正論ナリ今日日本ノ難事ハ全
ク條約ニ期限無キヨリ起ルヲナリト雖モ
始メ之ヲ結ビタルハ徳川政府ニシテ今日ハ
天皇ノ親政ト為リ其他ノ國情モ大ニ變
化シタルヲナルヲ以テ改正要求ノ權利ハ必ス
有ルナリ

但シ此ノ論ニ反對スル議論一條アルヲ以テ
余ハ義務トシテ其論ヲ評セサルヲ得ス即
民法ニ於テ期限所得ト稱シ他人ノ所有
ト雖モ數年之ヲ所持シテ真ノ所有主ノ
請求ニ逢ハサレハ則チ轉シテ自己ノ所有
ニ歸セシムルヲ得ヘシト言フノ箇條アルト
同シ理ニ依リ維新以來今日に至ル迄既ニ
數年ノ間先キノ條約ヲ實行シ居タル
ノ慮ヲ以テ今更之カ改正ヲ要求スルノ權
利ナク恰モ天皇ニ於テ先キノ條約ヲ是認

レ玉ヒシト同断ナリトスルノ論是レナリ余ハ
之ヲ評シテ言ハムトス 期滿所得ノコトハ民
法ニ於テ有ル所ナリト雖モ之ヲ以テ列國
公權ニ適用スルノ理ハ更ニ無シ故ニ右ハ無
據論ナリキ之ヲ要スルニ日本條約改正ノ事
ハ實ニ錯雜ナル難題ナリサレド余ノ意
見ハ既ニ定マレルカ故ニ質問ヲ受ケレハ則
テ陳述スヘシ只々遠キ維也納府ニ居テ
之ヲ喋々スルハ余ノ利トスル所ニ非サルコト
議官曰ク日本今日ノ事夫條約改正

ノ事ヨリ重大ナルハ無ク余ハ自ラ其局
ニ當ル者ニ非スト 雖モ平生之ヲ苦慮シ
テ止マス況ヤ事皇國ノ主權ニ關係ス
ルニ於テオヤ余不肖ナリト雖モ歸國ノ
上ハ高論ノ意ヲ奉シテ必ラス為ス所
アラムトス 故ニ若シ猶ホ先生ノ意見ヲ伺
フコト得ハ幸甚之ニ過キス
スタイン氏曰ク此ノ事タル之ヲ綿密ニ
領解スルハ一朝一夕ノ事ニ非ス先ツ萬國
公法全体ノ學ヲ修メ次ニ日本ニ於ケル

主権轉移

徳川氏ヨリ天皇ニ移リシ事

ノ次第ヲ法理上ヨリ

審議シ而シテ後現行條約ノ箇條ニ就テ
一々講究ヲ盡サハル可ラス何分ニモ實地
ニ就テ外國ト權利ヲ争フノ語シナルヲ以テ
今日迄ノ講議ノ如ク大要ヲ述フルニ止
マル者トハ大ニ其趣ヲ異ニスヘキナリ今ヤ
余ノ主義ノ存スル所ノミヲ一言セハ他ナ
シ向後日本ヨリ外國ニ對スルノ策ハ改正
ヲ迫テ破レル片ハ戦争ニ及フト事情ヲ陳
ヘテ改正ヲ望ムト、現行條約ノ明文ニ依テ

此條約ヲ改正スル所以ヲ辯護スルトノ三
ヲ出テスト雖モ戦争ハ固ヨリ困難重大
ナルヘク自國ノ事情ヲ述ヘテ空ニ願望
スモ十中ノ九ハ外國ノ認容スル所ト為ラ
サル可キヲ以テ殘ル所ノ一策ハ只從來ノ
條約ノ箇條中ニ見エタル理義ヲ以テ
推シテ此ノ條約ノ今日ニ行ハレ難キ所
以テ證明スルノ外有ラサルナリ是レ余ノ主
義ナリ萬國公法上云々ノ理義アリ從來
ノ條約ニ云ケル事項アリ之ヲ以テ彼ヲ推ス

此條約改正セサル可カラサル者ナ
リト論定スルノ外ニ取ルヘキノ策ナレ
且ツ余カ深ク日本ノ為メニ惜ム所ハ萬國
公權ヲ研究スルノ未タ十分ナラサルニアリ
萬國公權ハ事物自然ノ理ニ出テ、凡
ソ人タル者ノ認容セサルヲ得サル所ナリ
故ニ之ニ依テ國權ヲ張ルハ日本ノ最モ
得策トスル所ナリ

ブルンチーリ 國際法抄譯

條約上義務ノ消滅

第四百五十四條

條約ハ左ノ場合ニ於テ條約國一方ノ廢棄
ヲ通知スルニ由リ消滅ス

- 一、自由廢棄ノ權利ヲ約レタル場合
- 二、事情ニ由リ廢棄權ノ生シタル場合

凡ソ廢棄權ノ約セラレタル時ニ在リテモ數
多ノ場合ニ於テ廢棄權ニ下テ主張スルハ
公法ノ性質ヨリ生スル必要ナリ抑國際條

約ハ現在及未來ノ人民ノ安寧ニ関スルモノ
ニシテ而シテ現世ノ人ハ未來ノ人ニ永遠ノ義
務ヲ負シムルヲ得ス縱令當時ノ一國代
表者カ其宣言ニ依リ未來ノ人ニ義務ヲ
負セシムルヲ得ルニ此代表權ハ絶對的
モノニアラサルヲ思ハサルヘカラス又一國ノ代
表者ハ公共ノ有様ヲ永遠ニ定ムルノ見
識ヲ有セス又權カヲ有セサルモノナルヲ
忘ルヘカラス條約ノ永久ナルヲ恰モ憲法ノ
永久ト同ク不當ノモノナリ此二者ハ人類

及國民ノ自然ノ發達即チ變化ノ理ニ適

セサルモノニシテ正當ナル法理矛盾セリ

第四百五十五條

一條約國カ其義務ヲ盡サス又ハ條約上ノ
信義ヲ破ルハ之カ為メ毀損セラレタル條約
國ハ條約ヲ絶ツノ權利アリ

第四百五十六條

一國ノ負擔シタル條約上義務ノ條件及基
礎トナリタル實際ノ情況(公認又ハ默認)カ
時日ノ經過中大ニ變シ條約上ノ義務ヲ

盡スルヲ却テ自然ニ遷セス又ハ無用トナル
其條約上ノ義務消滅ス

國際法學者中其時ノ狀況ニ従ハサルカラ
スレバスレバスタシテスレバノ條款ハ總テ國際
條約ニ自ラ附著スルモノナリト説ク立ル者アリ
ト雖モ稍極端論ニ失セリ此ノ如ク見解ヲ下
スルハ凡ク條約ノ不確實ナリ何トナレバ凡ク公
共ノ狀況ハ時運ト共ニ漸ク變化スルモノナレ
ハナリ然レモ其反對派ハ凡ク條約上ノ義務
ハ狀況如何ニ變スルモ不變ニ繼續スヘキモ

ノナリトノ論モ亦極端論ナルヲ免セス固ヨリ
凡ク狀況ノ變更ハ悉ク條約ノ効力ヲ變更
スルモノナリトハ謂フヲ得スト雖モ一定ノ
變化ハ此効力ヲ有スルモノナリ即チ一定ノ公
共ノ有様カ。條約ノ條件及基礎ナリシモ
其後事情大ニ變シテ其後ノ法律上関
係ノ基礎ト認ムルヲ能ハルニ至ルハ條約基
礎破レ随テ其効力ヲ消滅スルモノナリ例ヘハ
人民ハ「加特力」若クハ「フロテスタント」宗ナルノ
條件ヲ以テ結ビタル條約ハ其人民他宗ニ

變スルハ其効力ヲ失フモノナリ又共和政
治若クハ君主政治ヲ以テ基礎ト定メタル
條約ハ此政体ヲ甲若クハ乙ニ變更スルハ無効ト
ナルモノナリ○李國カ丁抹君主ノ繼承順序ニ關ス
ル龍動條約ヲ廢棄シタル時(千八百五十四年
五月十日ノヒスマルクノ公文)ニ當リテ廢棄
理由トレテ丁抹國ノ義務ヲ盡サ、ルトト
狀況ノ一變シタルトテ以テセリ又千八百七十年
ニ於テ露國カ黑海ノ局外中立及黑海上露
國海軍ノ制限ニ關スル千八百五十六年ノ

條約ヲ廢棄シタルハ其理由トシテ爾來
狀況ノ變化シタルトテ以テセリ其他ノ條約國
ハ其廢棄ノ當否ヲ争フタリト雖遂ニ
龍動ノ新條約ヲ以テ露國ノ希望ニ應
セリロルド格蘭ウイルハ此一方ノ廢棄ニ及
對シ千八百七十年十一月十日ノ公文中ニ
於テ左ノ説ヲ述ヘタリ凡ソ條約ハ一國カ他ノ
國ヲ拘束シ又自ラ其自由權ノ一部ヲ棄ツ
ルモノナルニ彼ノ論説及彼ノ處置ニ依レハ各
條約國ハ随意ニ條約ノ全文ヲ審

査シテ其欲スル間ノミニ對シ拘束セラル
ハモノト解スルニ至ルヘレ云々

第四百五十七條

若シ條約上ノ義務ニシテ公認セラレタル人類
及萬國公法ノ發達ニ矛盾スルキハ其條約
ハ効力ヲ失フモノトス

例ハハ奴隸賣買ノ條約ハ自由航海ノ妨害
ニ關スル條約等ノ如キ締結ノ際ニ相當ト認
メラレタルモノモ其後仁慈及自由ノ法規時
開化世界ノ公認スル所トナルキハ不當ノ條約ト

ナルモノナリ

第四百五十八條

其他條約ノ規定ニシテ必要ト認メラレタル一國制
度ノ發達ト併立スルヲ得ス又ハ必要ナル民法
ノ變更ニ適セサルキハ其國ヨリ此條約ヲ廢
棄スルヲ得

條約上ノ權利ハ一國憲法及法制秩序ヲ
發達スル永久ノ妨害トナルヘカラサルモノ
ナリ凡ソ邦國ハ基生存ヲ維持シ且其必要
ナル發達ヲ鞏固ニスル為メニハ其曾テ

今日ト全ク相異ナル法律上ノ基礎ニ基キ結
ヒタル他國トノ關係ヲ脱離セサルヘカラス此理
ヲ争フハ恰モ本体ヲ形式ノ犠牲ニ供シ
且條約上ノ信義ヲ盡シテ自殺スルモノニ
シテ公共ナル法制秩序ノ本性及規定ニ
矛盾スルモノナリ蓋シ後生ノ者ノ先生
ノ者ヨリ拘束セラル、丁此ノ如キニ至ル
ヲ得ス又先生ノ者モ後生ノ者ヲ此ノ
如ク拘束スルヲ為サルヘシ

